



大連での初ロックダウンを経験して

北陸銀行 国際部
大連駐在員事務所
金春梅

1. はじめに

大連でのコロナ感染は、これまで郊外での拡大が何度かありましたが、8月に初めて市街中心部での感染拡大となったため、ロックダウンとなりました。

ゼロコロナ政策が続く限り中国では誰でも経験し得る事態であるので、ご紹介いたします。

2. ロックダウンに至るまで

今回の感染拡大は、8月下旬に郊外の集中隔離センターで誤って入国者と接触した人が、市街中心部の生鮮市場で広めたことが発端と言われています。接触者が立ち寄った生鮮市場のほか、オフィスビルなども28日から封鎖されました。

29日からは、バス・地下鉄の運行は30分～2時間に1本となり、通常の10%に制限されることになりましたが、この通知が発出されたのが前日の深夜であったため、翌日のバスや地下鉄は大混乱に陥りました。運行本数が制限されても出勤が制限されなかったため、駅構内や車内は超「密」状態になり、感染リスクがむしろ高まる事態となりました。

同通知では、市民に対しN95規格以上という高性能のマスク着用を求めたため、バスや地下鉄に乗れなかった人が多かったようです。近所の薬局ではすでに売り切れており、普通の不織布マスクでスーパーへ行ったところ、入口で店員に入店拒否され、大変ショックでした（当然、前日までは普通に入れました）。



【定員オーバーのため傾いたバス】



【地下鉄駅に入れない人たち】



【地下鉄の中も超満員】

3. ロックダウンの内容

主な内容としては、「基本的に在宅勤務・オンライン授業で、バス・地下鉄は運休」の他、「高リスク地区(感染者が居住していた場所)では、家から出ない」、「中リスク地区(高リスク地区で7日間感染者が発生しなかった場所)では、団地から出ない」、「低リスク地区(中リスク地区で3日間感染者が発生しなかった場所)では、1世帯1人1日1回のみ生活物資の買い出し可」というものです。実際には感染者の発生具合によって、各区や各社区(町内会)における運用面で強弱があったようです。

4. ロックダウンの生活(外出制限)

私には一人暮らしの母親がおりますので、外出禁止となった時には泊まり込むことを想定し、事前に自宅の家族の2週間分以上の食料品や日用品を確保しておきました。幸い母親の団地は、感染者がほとんど発生せず低リスク地区だったので、毎日のPCR検査以外に、3日に1回2時間以内の食品購入のための外出が可能でした。

ロックダウン開始後は、団地に入出入りする際、門の警備員に「住民出入カード」の提示が必要でした。近くの生鮮市場で入口の「場所コード」(QRコード)をスキャンすると、スマホ画面に直近のPCR検査結果と入場時間が表示されます(「緑」なら入場可)。密集防止のため入場者数をコントロールしており、入場に20~30分かかりました。市場内の野菜は新鮮で種類・品数は豊富でしたが、価格はいつもより1割~5割高くなっていました。



写真左:場所コードのスキャンが必要
写真右:生鮮市場の入場順番待ちの行列

また独自ルートで野菜や果物、海産物などを調達し、SNSグループで注文を受け付け、各家庭に配送してくれる個人事業者も出現しました。

5. おわりに

今回紹介したものは9月13日現在の大連市中心部の状況ですが、ピーク時には高リスク地区5カ所、中リスク地区46カ所まで増加し、取引先の現法工場や協力工場が操業停止になりました。当事務所のある西崗区では感染者が他区より多かったため、スーパーやコンビニなどの全店舗が営業停止となり、不要不急の外出禁止や3日間の宅配停止など、より厳しい行動制限がなされました。

このロックダウンを経験した教訓として、①リスク管理の意識を強く持つ、②幅広く交流し様々な情報を収集する、③事前準備(日頃の備え)を怠らない、ことが重要であると考えさせられました。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp